

- 者におけるフェンタニルパッチ 2.5mg 製剤半面貼付の検討. YAKUGAKU ZASSI. 128(3) 447-450 2008
17. 佐伯俊成, 他: 身体科からみたうつ病中核群—身体疾患とうつの関連. 精神科治療学 24: 97-101, 2009
 18. 佐伯俊成: 精神医療における電子メールコミュニケーションの実際. 精神科治療学 23: 549-552, 2008
 19. 佐伯俊成: IT (information technology) を介した精神医療における倫理. 精神科治療学 23: 587-589, 2008
 20. 佐伯俊成, 他: せん妄の診断—一般診療医が行うべき治療とは. がん患者と対症療法 19: 122-128, 2008
 21. 佐伯俊成, 他: 癌患者の家族に対する精神的ケア. コンセンサス癌治療 7: 20-23, 2008
 22. 尾形明子, 佐伯俊成: 小児がん患者と家族に対する心理的ケア. 総合病院精神医学 20: 26-32, 2008
 23. 辻哲也: 【がんのリハビリテーション最前線】現状と今後の動向. 総合リハビリテーション 36(5): 427-434, 2008.
 24. 辻哲也: 骨転移痛に対する対策 骨転移患者のケア. ペインクリニック 29(6): 761-768, 2008.
 25. 辻哲也: 臨床と研究に役立つ 緩和ケアのアセスメント・ツール がん患者のリハビリテーションの評価. 緩和ケア 18, 161-165, 2009
 26. 辻哲也: 悪性腫瘍(がん)のリハビリテーション. 介護福祉 71(秋期号): 95-114, 2008.
 27. 辻哲也: がん治療における理学療法の可能性と課題 がん治療の現状. 理学療法ジャーナル 42(11): 915-924, 2008.
 28. 辻哲也: がん医療におけるリハビリテーションの役割—いま何が求められているか、地域リハビリテーション(4)、60-64、2009
 29. 石川愛子, 辻哲也: 造血幹細胞移植とリハビリテーションの実際. 臨床リハビリテーション 17(5): 463-470, 2008.
 30. 田沼明, 辻哲也, 木村彰男: 【がんのリハビリテーション最前線】リハビリテーションの実際 頭頸部癌. 総合リハビリテーション 36(5): 447-452, 2008.
 31. 永竿智久, 中島龍夫, 辻哲也, 里宇明元: 四肢のリンパ浮腫の治療 微少循環装置を用いた下肢リンパ浮腫の血行動態解析と手術予後判定. PEPARS 22(7): 90-97, 2008.
 32. 藤本亘史, 森田達也: 疼痛マネジメントをするための系統的・継続的評価. 月間ナーシング 28:90-94, 2008.
 33. 森田達也: 緩和ケアの現在と将来—Introduction for psychiatrists—. 臨床精神薬理 11:777-786, 2008.
 34. 山岸暁美, 森田達也: 緩和ケア普及のための地域プロジェクト—がん対策のための戦略研究「OPTIMプロジェクト」. 緩和ケア 18:248-250, 2008.
 35. 森田達也: 終末期癌患者における輸液治療—日本緩和医療学会ガイドラインの概要—. 日本医事新報 4390:68-74, 2008.
 36. 山岸暁美, 森田達也, 他: 研究プロジェクト①地域介入研究(戦略研究). 緩和医療学 10:215-222, 2008.
 37. 河正子, 森田達也: 研究プロジェクト⑧スピリチュアルケア. 緩和医療学 10(3):256-262, 2008.
 38. 安藤満代, 森田達也: 終末期がん患者へのライフレビュー—その現状と展望—. 看護技術 54:65-69, 2008.
 39. 安藤満代, 森田達也: 終末期がん患者へのスピリチュアルケアとしての短期回想法の実践. 看護技術 54:69-73, 2008.
 40. 森田達也: 医療連携と緩和医療; OPTIMプロジェクトによる地域介入研究の紹介. コンセンサス癌治療 7:123-125, 2008.
 41. 森田達也, 他: 臨床と研究に役立つ 緩和ケアのアセスメント・ツール II. 身体症状 4. 緩和ケアニードのスクリーニングツール. 緩和ケア 18(Supp1):15-19, 2008.
 42. 森田達也: 臨床と研究に役立つ 緩和ケアのアセスメント・ツール IX. 患

- 者・家族における臨床ツール 4. 症状評価のためのツール. 緩和ケア 18(Suppl):129-131, 2008.
43. 藤本亘史, 森田達也: 臨床と研究に役立つ緩和ケアのアセスメント・ツール X. その他の評価とツール 5. 緩和ケアチーム初期評価表. 緩和ケア 18(Suppl):157-160, 2008.
 44. 下山恵美, 下山直人, 他: 経口オピオイド鎮痛薬の重要性とオキシコドンが果たす臨床的役割, がん患者と対症療法 18(2), 6-10, 2007
 45. 下山直人: 科学的知見に基づくオピオイドに関する知識の再確認, がん患者と対症療法 18(2), 85-87, 2007
 46. 中山理加, 下山直人, 他: 疼痛コントロール, 内科 100 (6): 1037-1045, 2007
 47. 片山博文, 下山直人, 他: 腎障害を伴うがん患者の痛み治療におけるオキシコドンの有用性—モルヒネからの切り替え事例を経験して, がん患者と対症療法 18(2):40-42, 2007
 48. 下山直人: 緩和治療・痛みのケア, 別冊暮らしの手帖 がん安心読本:76-81, 2007
 49. 下山直人: 緩和ケア療法における鎮痛薬の使い方, 日本耳鼻咽喉科学会専門医通信 92: 12-13, 2007
 50. 中山理加, 下山直人, 他: 癌性疼痛, 臨牀と研究 84(6):57-61, 2007
 51. 下山直人: 緩和医療はここまで進んだ, 東京女子医科大学雑誌 77(4):182-186, 2007
 52. 服部政治, 下山直人, 他: オピオイドローテーション, 緩和医療学 9(2):79-85, 2007
 53. 中山理加, 下山直人, 他: QOL維持のための疼痛管理, からだの科学, 253:178-182, 2007
 54. 木俣有美子, 下山直人, 他: 肺がんの合併症対策 1) がん性疼痛の管理, 呼吸器科, 11(2):156-163, 2007
 55. 門田和気, 下山直人, 他: 新しく導入される可能性の高いオピオイドとその意義, がん看護, 12(2):180-183, 2007
 56. 中山理加, 下山直人, 他: 鎮痛補助薬, 日本臨牀, 65(1):57-62, 2007
 57. 橋爪隆弘, 的場元弘, 他: フェンタニルパッチ導入において添付文書が推奨する先行オピオイド最低用量の妥当性: 日本における他施設の専門医処方調査. がんと科学療法 34 (6) 897-902, 2007
 58. 富安志郎, 的場元弘, 他: 内服モルヒネレスキュードーズ簡略化の妥当性: 5 mg 単位での鎮痛効果と副作用の多施設調査. ペインクリニック; 28 (2) 209-215, 2007
 59. 中村和代, 的場元弘, 他: がん性疼痛患者におけるオキシコドン除放錠の薬物動態についての検討. 癌と化学療法, 34(9), 1449-1453, 2007
 60. 的場元弘, 他: WHO 方式がん疼痛ガイドラインの推奨量によるアセトアミノフェン: 日本における有効性と安全性の多施設処方調査. ペインクリニック 28 1131-1139, 2007
 61. 的場元弘, 他: 経口オピオイド鎮痛薬の重要性とオキシコドンの副作用とその対策. がん患者と対症療法. 18 (2), 11-17, 2007
 62. 佐伯俊成, 他: がん緩和ケアにおける非定型抗精神病薬の役割. 総合病院精神医学 19: 311-316, 2007
 63. 辻哲也: 【肺がんの合併症対策】呼吸困難に対する管理. 呼吸器科 11(2): 164- 171, 2007.
 64. 森田達也, 他: 緩和ケアチームの活動—聖隷三方原病院の場合—. 日本臨床 65:128-137, 2007.
 65. 森田達也: 緩和ケアにおけるクリニカルパス, 一序—緩和医療学 9:1, 2007.
 66. 森田達也, 他: STAS-J を用いた苦痛のスクリーニングシステム. 緩和医療学 9:159-162, 2007.
 67. 森田達也, 他: 緩和ケアにおけるコンサルテーション活動の専門性. 緩和ケアチームの活動の現況と展望—聖隷三方原病院の場合. ホスピス緩和ケア白書 2007, p17-23, 2007.
 68. 安達勇, 森田達也: 終末期がん患者に対する輸液ガイドライン: 概念的枠組み. 緩和ケア 17:186-188, 2007.
 69. 山田理恵, 森田達也, 他: 末梢静脈からのガイドワイヤーを用いた中心静脈カテーテルの挿入. 緩和ケア

- 17:223-224, 2007.
70. 明智龍男, 森田達也, 他: 看取りの症状緩和パス: せん妄. 緩和医療学 9:245-251, 2007.
 71. 八代英子, 森田達也, 他: 看取りの症状緩和パス: 嘔気・嘔吐. 緩和医療学 9:259-264, 2007.
 72. 森田達也: 終末期の輸液管理. 消化器外科 Nursing 12:965-974, 2007.
 73. 森田達也: 緩和ケアへの紹介のタイミング: 概念から実行のとき. 腫瘍内科 1:364-371, 2007.
 74. 森田達也: 終末期がんの場合 1. 輸液. がん医療におけるコミュニケーション・スキル 医学書院 58-63, 2007.
 75. 森田達也: 終末期がんの場合 2. 鎮静. がん医療におけるコミュニケーション・スキル 医学書院 64-69, 2007.
 76. 森田達也: 緩和治療とは何か. 医学芸術社. がん化学療法と患者ケア 改訂第2版 232-234, 2007.
 77. 下山直人: 許認可薬の適応外使用について、緩和ケア、16Suppl.:294-296, 2006
 78. 下山恵美, 下山直人: がん性神経障害性疼痛の基礎研究、ペインクリニック、27(8):959-964, 2006
 79. 笠井慎也, 下山直人, 他: がん性疼痛患者におけるオピオイドの作用、副作用に関する遺伝子解析、ペインクリニック、27(8):965-973, 2006
 80. 高橋秀徳, 下山直人, 他: モルヒネ、フェンタニル、オキシコドンを使い分ける(オピオイドローテーション)、モダンフィジシャン、26(7):1210-1211, 2006
 81. 下山直人, 他: 緩和ケアにおける麻酔科の役割、日本医師会雑誌、135(4):806-811, 2006
 82. 村上敏史, 下山直人: がん性疼痛における痛みのアセスメント、痛みと臨床、6(3):72-77, 2006
 83. 高橋秀徳, 下山直人, 他: モルヒネの効かないがんの痛みをどうするか?、Modern Physician、26(6):1024, 2006
 84. 越川貴史, 下山直人: 在宅緩和ケアへの移行と疼痛管理について、癌と化学療法、33(5):611-615, 2006
 85. 辻尚子, 下山直人: 小児がんの痛みと治療の基本姿勢、がん患者と対症療法、17(1):6-10, 2006
 86. 下山直人: がん患者におこる痛みの治療におけるオピオイド製剤の使い方、実験治療、681:60-63, 2006
 87. 下山直人, 他: 麻酔科医がペインクリニシャン、そして緩和ケア医となって、日本臨床麻酔学会誌、26(1):18-24, 2006
 88. 国分秀也, 的場元弘, 他: がん性疼痛患者における高用量アセトアミノフェン坐薬の有用性の検討、Palliative Care Research, 1(1):311-316, 2006
 89. 佐伯俊成, 他: 希死念慮のあるがん患者への対応、緩和ケア 16: 324-328, 2006
 90. 佐伯俊成, 他: せん妄. 緩和医療学 7: 301-305, 2006
 91. 佐伯俊成: 新規抗精神病薬によるせん妄治療. 緩和ケア 16: 132-133, 2006
 92. 辻哲也: 【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】進行がん患者に対するリハビリテーション. 緩和ケア 16(1): 6-11, 2006.
 93. 辻哲也, 他: がん治療のリハビリテーション 頸部郭清術後のリハビリテーション. 看護技術 52(3): 235-241, 2006.
 94. 辻哲也: 非運動器疾患における運動器の問題. リハビリテーション医学 43(4): 236-242, 2006.
 95. 辻哲也: 体と心をケアする処方箋 がん治療に伴う嚥下障害とその対策. がんサポート 35(9): 86-93, 2006.
 96. 松本真以子, 辻哲也: 臨床にいかすリハビリテーション診断学 リハビリテーション患者にみられる下肢の浮腫. 臨床リハ 15(1): 50-55, 2006.
 97. 青木朝子, 辻哲也: リンパ浮腫治療のエビデンス. 緩和ケア 16(1): 44-48, 2006.
 98. 松本真以子, 辻哲也: 【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】癌性疼痛に対する物理療法の実践. 緩和ケア 16(1): 18-22, 2006.
 99. 田沼明, 辻哲也: 【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】

- ク】廃用症候群の予防の実際. 緩和ケア 16(1): 23-27, 2006.
100. 安藤牧子, 辻哲也: 【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】進行がん患者の嚥下障害・発声障害・高次脳機能障害へのアプローチ. 緩和ケア 16(1): 36-43, 2006.
101. 田尻寿子, 辻哲也, 他: 【進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック】日常生活動作 (ADL) の障害へのアプローチ. 緩和ケア 16(1): 28-35, 2006.
102. 岡山太郎, 辻哲也: 【がん治療のリハビリテーション】消化器系がん患者に対する周術期リハビリテーション—食道癌を中心に—. 看護技術 52(1): 66-72, 2006.
103. 田尻寿子, 辻哲也, 他: 【がん治療のリハビリテーション】乳がん・婦人科がん患者に対する周術期リハビリテーション. 看護技術 52(2): 148-155, 2006.
104. 安藤牧子, 辻哲也: 【がん治療のリハビリテーション】摂食・嚥下リハビリテーション. 看護技術 52(4): 325-333, 2006.
105. 青木朝子, 辻哲也: 【がん治療のリハビリテーション】リンパ浮腫のリハビリテーション. 看護技術 52(7): 629-633, 2006.
106. 松本真以子, 辻哲也, 他: 【がん治療のリハビリテーション】四肢切断術後のリハビリテーション. 看護技術 52(8): 717-725, 2006.
107. 田沼明, 辻哲也: プライマリ・ケア医のための緩和リハビリテーションの心得. JIM 16(9): 752-757, 2006.
108. 田沼明, 辻哲也: 【がん治療のリハビリテーション】廃用症候群, 体力低下に対するリハビリテーション. 看護技術 52(8): 804-808, 2006.
109. 田沼明, 辻哲也: 浮腫のあるがん患者へのリンパドレナージ, 圧迫療法. 看護技術 52(10): 864-868, 2006.
110. 安達勇, 森田達也: がん終末期患者への輸液ガイドライン作成に向けた調査研究. 看護技術, 52(6): 50-54, 2006
111. 森田達也: 終末期の輸液の考え方を教えてください. 一般病棟でできる緩和ケア Q&A, 総合医学社, ナーシングケア Q&A, 11:144-145, 2006
112. 森田達也: 鎮静とは何ですか? 一般病棟でできる緩和ケア Q&A, 総合医学社, ナーシングケア Q&A, 11:180-181, 2006
113. 森田達也: 鎮静に使われる薬剤の使い方を教えてください. 一般病棟でできる緩和ケア Q&A, 総合医学社, ナーシングケア Q&A, 11:184-185, 2006
114. 森田達也: QOL からみた終末期がん患者の水分管理. 緩和医療学, 8(4):354-362, 2006
115. 安達勇, 森田達也: 終末期がん患者に対する輸液ガイドラインについて. 緩和医療学, 8(4):363-370, 2006
116. 森田達也: 鎮静薬の基礎知識と使い方. 緩和ケア, 16(Suppl):96-99, 2006

学会発表

①国際学会

1. Shimoyama M., Shimoyama N., et al., Endocannabinoids are involved in the pain modulation by orexin, 12th world Congress on Pain, Glasgow, Aug.20th, 2008
2. Saeki T, et al: Family functioning as a predictor of psychological morbidity in breast cancer survivors: a 3-year prospective study. 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting, Tokyo, Japan, November 2008
3. Saeki T, et al: Relationship between Family Functioning and Psychological Distress in Breast Cancer Survivors: a 3-year Prospective Study. 8th World Psychiatric Association Regional Conference, Shanghai, China, 2007
4. Tsuji T, et al. Shoulder-arm morbidity following neck dissection in head and neck cancer patient. 4th World congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine. Seoul, Korea, 2007
5. Ozono S, Saeki T, et al: Family typology and psychological distress among Japanese childhood cancer survivors and their parents. The 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice, Italy (2006.10.)
6. Yamashita M, Saeki T, et al: Family Functioning As a Predictor of Depression and Anxiety in Breast Cancer Survivors: a

- 3-year Prospective Study. The 8th World Congress of Psycho-Oncology, Venice, Italy (2006.10.)
7. Tsuji T, et al. Electromyographic studies after different selective neck dissections (SND) : comparison between types of the cervical nerves. 28th International Congress of Clinical Neurophysiology. Edinburgh, UK, 2006
 8. Akazawa T, Morita T, Akechi T, et al.:Contributing factors and physical-psychosocial characteristics of desire for early death among patients near the end of life in Japan. *Psycho-Oncology* 15(2):S153,2006
- ②国内学会
1. 下山直人 :「癌領域に関する緩和治療」:第7回千葉県がん専門薬剤師セミナー、2008.1、千葉
 2. 下山直人 :「がん緩和医療の最前線について」:平成19年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」これからのがん医療のあり方を考える市民公開講座、2008.1、札幌
 3. 下山直人 :シンポジウム『がん性疼痛患者の心をさぐる』「がん性疼痛患者へのチームによる全人的緩和医療」:第37回日本慢性疼痛学会、2008.2、栃木
 4. 下山直人 :「緩和医療の現状と今後の展望」:千葉がん疼痛治療フォーラム、2008.3、千葉
 5. 下山直人 :「がんの緩和療法のノウハウ」:第96回日本泌尿器科学会総会「指導医教育企画」、2008.4、横浜
 6. 下山直人 :「頭頸部がん患者の緩和ケア」:第32回日本頭頸部癌学会教育講演2、2008.6、東京
 7. 下山直人 :「難治性疼痛の治療」:第55回日本麻酔科学会教育講演11、2008.6、横浜
 8. 下山直人 :「がんの痛みは我慢しない方がいい」:第三回 三重市民公開講座、2008.6、三重
 9. 下山直人 :「基幹病院と地域医療の連携についての取り組みーがん難民を作らないために」:第16回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 千葉、2008.7、千葉
 10. 下山直人 :「がんの痛みは怖くないーがんの痛みのメカニズムと治療」:名古屋大学環境医学研究所市民公開講座、2008.10、名古屋
 11. 下山直人 :「痛みごとの鎮痛」:第37回精神研シンポジウム、2008.10、東京
 12. 下山直人 :シンポジウム4『骨転移による疼痛管理の基礎と応用』「骨転移」:第2回日本緩和医療薬学会年会、2008.10、横浜
 13. 的場元弘 神経障害性疼痛と鎮痛補助薬:闇夜の手探りから黎明へ 日本緩和医療学会総会 静岡 2008.7.4
 14. 的場元弘 緩和医療におけるメチルフェニデートの有用性 日本臨床精神神経薬理学会・日本精神神経薬理学会合同年会 東京 2008.10.2
 15. 高石美樹, 佐伯俊成, 他:早期乳がん生存者の精神的健康と家族機能の関連ー3年追跡研究ー. 第21回日本サイコオンコロジー学会総会, 東京, 2008年10月
 16. 佐伯俊成 :緩和医療に欠かせないコミュニケーション技術ー上手な聴き方の五原則ー. 第2回日本緩和医療薬学会年会ワークショップ「薬剤師に今, 必要なことーより良い Patient Coordinator をめざしてー」, 横浜, 2008年10月
 17. 高石美樹, 佐伯俊成, 他:がん患者の家族への精神的ケアに対する大きなニーズー医療ユーザー1000人アンケートの結果からー. 第13回日本緩和医療学会総会, 静岡, 2008年7月
 18. 佐伯俊成, 他:がん緩和医療における精神的ケアの担い手としての臨床心理士に対するニーズー医療従事者2000人アンケートの結果からー. 第13回日本緩和医療学会総会, 静岡, 2008年7月
 19. 佐伯俊成 :がん疼痛緩和における向精神薬処方最適化ー最近の抗うつ薬, 抗精神病薬を使いこなすにはー. 日本ペインクリニック学会第42回大会ランチョンセミナー, 福岡, 2008年7月
 20. 辻哲也 シンポジウム:緩和医療における代替補完療法の役割 緩和ケアに

- おけるリハビリテーションの役割 第9回近畿緩和医療研究会 4月19日 2008 大阪
21. 辻哲也 シンポジウム：専門医としていかにこの患者に対応するか 終末期癌患者に対するリハ処方 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会 専門医会 6月5日 2008 横浜
 22. 辻哲也 講演：リンパ浮腫のケアのポイントと治療の実際 聖マリアンナ医科大学婦人科腫瘍講演会 6月16日 2008 川崎
 23. 辻哲也 ワークショップ：緩和ケアにおけるリハビリテーション：明日から役立つ知識とテクニック がんのリハビリテーションの現状と課題—緩和医療における役割 第13回日本緩和医療学会総会 7月5日 2008 静岡
 24. 辻哲也 パネルディスカッション：術後早期回復へ向けての代謝栄養学的工夫 悪性腫瘍（がん）の周術期リハビリテーション—開胸・開腹手術を中心に— 日本外科代謝栄養学会 第45回学術集会 7月11日 2008 仙台
 25. 辻哲也 講演：リンパ浮腫のケアのポイントと治療の実際 太田西ノ内病院緩和ケア勉強会 8月6日 2008 郡山
 26. 辻哲也 講演：悪性腫瘍（がん）のリハビリテーションの最前線 第88回北海道医学大会リハビリテーション分科会 10月4日 2008 札幌
 27. 辻哲也 シンポジウム：がん患者のQOL向上と在院日数短縮の両立をめざして がん医療におけるリハビリテーションの役割 現状と今後の課題 第5回広島保健学会学術集会 10月5日 2008 広島
 28. 辻哲也 講演：腫瘍リハビリテーション 大学院科目臨床腫瘍学：がんプロフェッショナル養成プラン（自治医科大学）10月15日 2008 栃木
 29. 辻哲也 講演：リハビリテーション 大学院専門科目緩和医療学：がんプロフェッショナル養成プラン（埼玉医科大学）10月16日 2008 埼玉
 30. 辻哲也 シンポジウム：専門技術職はがん治療にどのように関わるか—医療専門職のための大学院教育に向けて— がん治療におけるリハビリテーションの役割 がんプロフェッショナル養成プラン公開シンポジウム 11月7日 2008 東京
 31. 辻哲也 講演：がんのリハビリテーション現状と今後の動向 がんプロフェッショナル養成プラン（京都大学）がんリハビリテーション特別講演会 11月8日 2008 京都
 32. 辻哲也 講演：がんのリハビリテーション最前線・リンパ浮腫のケアのポイントと治療の実際 坪井病院特別講演会 11月12日 2008 郡山
 33. 辻哲也 講演：がん医療におけるリハビリテーションのこれから がん患者のリハビリテーションのこれから—QOLと尊厳を支えるリハビリテーションとは— 群馬がん看護研究会スキルアップセミナー 11月15日 2008 渋川
 34. 辻哲也 講演：がんのリハビリテーション最前線 がん医療変革の時代 QOLと尊厳を支えるリハビリテーションチームケアにおける看護師の役割 12月18日 2008 東京
 35. 辻哲也 講演：緩和医療におけるリハビリテーションの役割 第6回大阪緩和医療フォーラム 1月17日 2009 大阪
 36. 辻哲也, 他 がんのリハビリテーションの普及に向けて—がん拠点病院を対象とした研修セミナーにおけるアンケート調査報告 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会 6月 2008 横浜
 37. 前田陽子, 辻哲也, 他 リンパ浮腫に対する弾性包帯を用いた圧迫療法の効果 第42回作業療法学術集会 6月 2008 長崎
 38. 田沼明, 辻哲也, 他 頭頸部癌に対する放射線療法後の経口摂取状況 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会 6月 2008 横浜
 39. 石川愛子, 辻哲也, 他 同種造血幹細胞移植後のステロイド治療と握力変化に関する検討 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会 6月

- 2008 横浜
40. 藤澤大介, 辻哲也, 他 慶應義塾大学病院における入院患者の緩和ケアニーズ 緩和医療学会 7月 2008 静岡
 41. 志真泰夫, 森田達也: シンポジウム6 終末期医療における臨床倫理: こんな時どう考える? 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 42. 岡村仁, 森田達也, 他: ランチョンセミナー8 エビデンスに基づいた終末期せん妄の家族へのケア. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 43. 佐藤一樹, 森田達也, 他: がん診療連携拠点病院1施設の一般病棟と緩和ケア病棟での死亡前48時間以内に実施された医療の実態調査. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 44. 佐藤一樹, 森田達也, 他: 診療記録から抽出する終末期がん医療の質指標による一般病棟での終末期がん医療の質の評価. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 45. 深堀浩樹, 森田達也, 他: 高齢者施設におけるがん患者への緩和ケアの実態 OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 46. 平井啓, 的場元弘, 森田達也, 他: 地域住民の緩和ケアの利用に対する準備性と各種メディアに対する信頼性 OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 47. 宮下光令, 森田達也, 他: 一般市民のがん医療に対する安心感および医療用麻薬・緩和ケア病棟に対する認識 OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 48. 宮下光令, 森田達也, 他: 地域の医師・看護師の緩和医療の提供に関する地震及び困難感 OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 49. 杉浦宗敏, 森田達也, 的場元弘, 他: がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供機能に関する薬剤業務の実態調査(1). 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 50. 佐野元彦, 森田達也, 的場元弘, 他: がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供機能に関する薬剤業務の実態調査(2). 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 51. 吉田沙蘭, 森田達也, 他: 一般市民がもつ緩和ケアの整備に対する認識 OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 52. 山岸暁美, 森田達也, 他: 一般市民および地域在住がん患者の療養死亡場所の希望: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 53. 新城拓也, 森田達也, 他: 遺族調査から見る臨終前後の家族の経験と望ましいケア: J-HOPE study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 54. 天野功二, 森田達也, 他: 聖隷ホスピスにおける造血器悪性腫瘍患者に対する緩和医療. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 55. 宮下光令, 森田達也, 他: J-HOPE study (The Japan Hospice and Palliative care Evaluation study): 研究デザインおよび参加施設の概要. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 56. 山岸暁美, 森田達也, 他: がん患者における在宅療養継続の阻害要因および在宅診療提供体制 OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 57. 古村和恵, 森田達也, 他: がん患者と医療者の情報共有ツール「わたしのカルテ」の必要性に関する質問紙調査: OPTIM STUDY. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 58. 赤澤輝和, 森田達也, 他: がん医療における相談記録シートの作成と実施可能性の検討: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 59. 大木純子, 森田達也, 他: がん患者に今求められる支援・サポートとは～地域医療者のブレインストーミングの結果から～: OPTIM STUDY. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 60. 前堀直美, 森田達也, 他: 浜松市保険薬局薬剤師に対してのがん緩和医療に関するアンケート調査. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 61. 藤本亘史, 森田達也, 他: 遺族調査の結果からみた緩和ケアチームの介入時

- 期と有用性：J-HOPE study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
62. 三澤知代, 森田達也, 他：がん診療連携拠点病院における緩和ケアチームメンバーの緩和ケア提供に対する自己評価の実態. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 63. 宮下光令, 森田達也, 他：全国のがん診療連携拠点病院における緩和ケアチーム(PCT)の実態調査. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 64. 前堀直美, 森田達也, 他：外来緩和ケア患者のがん性疼痛に対する保険薬局の新しい取組み～疼痛評価・電話モニタリング・受診前アセスメントの初期経験～. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 65. 永江浩史, 森田達也, 他：緊急入院した新興前立腺癌緩和ケア患者の入院前外来ケア内容にみられた課題. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 66. 久永貴之, 森田達也, 他：がんによる消化管閉塞に対する酢酸オクトレオチドの治療効果(主観的指標)に関する研究. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 67. 山田理恵, 森田達也, 他：末梢静脈から挿入する中心静脈カテーテルの患者による評価. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 68. 山岸暁美, 森田達也, 他：経口摂取が低下した終末期がん患者の家族に対する望ましいケア J-HOPE study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 69. 赤澤輝和, 森田達也, 他：遺族調査から見る終末期がん患者の負担感に対する望ましいケア：J-HOPE study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 70. 大谷弘行, 森田達也, 他：「抗がん剤治療の中止」を患者・家族へ説明する際の腫瘍医の負担. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 71. 三條真紀子, 森田達也, 他：ホスピス・緩和ケア病棟への入院を検討する時期の家族のつらさと望ましいケア：J-HOPE study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 72. 三條真紀子, 森田達也, 他：ホスピス・緩和ケア病棟に関する望ましい情報提供のあり方：J-HOPE study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 73. 塩崎麻里子, 森田達也, 他：遺族の後悔に影響するホスピス・緩和ケア病棟への入院に関する意思決定要因の探索：J-HOPE Study. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 74. 福田かおり, 森田達也, 他：看取りのパンフレットの作成と実施可能性. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 75. 岩崎静乃, 森田達也, 他：ホスピス病棟入院患者の死亡前口腔内状況. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 76. 中澤葉字子, 森田達也, 他：緩和ケアに対する医療者の知識・態度・困難度を評価する尺度の作成と信頼性・妥当性の検証. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 77. 宮下光令, 森田達也, 他：一般市民に対する緩和ケアに関する教育的介入の短期効果. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 78. 宮下光令, 森田達也, 他：遺族の評価による終末期がん患者のQOLを評価する尺度(GDI: Good Death Inventory)の信頼性と妥当性の検証. 第13回日本緩和医療学会総会. 2008.7, 静岡
 79. 明智龍男, 森田達也：シンポジウム1 精神的苦悩を緩和する：日常臨床におけるケアと治療の実践. 第21回日本サイコオンコロジー学会総会. 2008.10, 東京
 80. 吉田沙蘭, 森田達也, 他：がん患者の家族に対する望ましい余命告知のあり方の探索. 第21回日本サイコオンコロジー学会総会. 2008.10, 東京
 81. 赤澤輝和, 森田達也, 他：遺族調査から見る終末期がん患者の負担感：J-HOPE study. 第21回日本サイコオンコロジー学会総会. 2008.10, 東京
 82. 三條真紀子, 森田達也, 他：終末期のがん患者を介護した遺族による介護経

- 験の評価尺度の作成. 第21回日本サイコオンコロジー学会総会. 2008.10, 東京
83. 下山直人: シンポジウム『関連領域で活躍している麻酔医』「麻酔科医にとっての緩和医療の意義」: 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部合同学術集会, 2007.9.22、栃木
84. 下山直人: パネルディスカッション (1) 緩和医療と麻酔科「緩和医療卒後研修における麻酔科の役割」: 日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007.10.25、東京
85. 下山直人: シンポジウム『疼痛治療による「前向き」医療の科学的根拠』「がん性疼痛の緩和による延命効果について」: 第1回日本緩和医療薬学会年会, 2007.10.21、東京
86. 下山直人: 教育セッション15「がん治療 update: 緩和医療」: 第45回日本癌治療学会総会, 2007.10.26、京都
87. 下山直人: シンポジウム『がん性疼痛 TDDS (フェンタニルパッチ) の臨床的意義』: TDDS 世界シンポジウム, 2007.12.1、東京
88. 佐伯俊成: 薬剤師が知っておくべき精神的ケアの ABC—コミュニケーションと向精神薬処方の方—。第1回日本緩和医療薬学会第1回年会ランチョンセミナー, 東京, 2007
89. 佐伯俊成: 医療スタッフなら知っておきたい精神的ケアの基本技術—コミュニケーションと薬物療法のポイント—。第45回日本癌治療学会ランチョンセミナー, 京都, 2007
90. 佐伯俊成: 緩和ケアチームにおける精神科医のミッション—身体科スタッフが精神科医に望むものとは—。第20回日本サイコオンコロジー学会イブニングセミナー, 札幌, 2007
91. 佐伯俊成: IT (Information Technology) を援用した精神医療の可能性。第26回日本社会精神医学会シンポジウム, 横浜, 2007
92. 辻哲也 講演: リハビリテーション第2回日本緩和医療学会教育セミナー 東京 1月13日 2007
93. 辻哲也 講演: がん性疼痛を有する患者のリハビリテーション 認定看護師がん性疼痛看護コース 東京 1月17日 2007
94. 辻哲也 講演: 新たな領域への挑戦 がんのリハビリテーション 第32回日本リハビリテーション医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会 7月7日 大津 2007
95. 辻哲也 講演: 緩和医療のリハビリテーション 進行がん患者の浮腫への対応を中心に 川崎緩和医療勉強会 7月30日 川崎 2007
96. 辻哲也 シンポジウム: 摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケア 摂食・嚥下リハビリテーションが口腔ケアへ考える期待—がんセンターにおける取り組みから— 第13回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会 9月14日 大宮 2007
97. 辻哲也 講演: 医学の立場から; がんのリハビリテーション最前線 第16回高度先進リハビリテーション医学研究会 2月23日 東京 2008
98. 辻哲也, 他 悪性腫瘍のリハビリテーション—がんセンターと大学病院における実態比較 第12回日本緩和医療学会 2007年6月 岡山
99. 宮田知恵子, 辻哲也, 他 大学病院におけるリンパ浮腫外来の実態と介入効果の検討 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会 2007年6月
100. 田沼明, 辻哲也, 他 頭頸部癌に対する放射線療法後の嚥下障害 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会 2007年6月
101. 宮田知恵子, 辻哲也, 他 大学病院におけるリンパ浮腫外来の取り組み 第12回日本緩和医療学会 2007年6月 岡山
102. 満田恵, 辻哲也, 他 下肢リンパ浮腫が歩行能力に与える影響 第43回日本理学療法学会 2007年
103. 前田陽子, 辻哲也, 他 上肢周径測定における信頼性の検討 第41回作業療法学術集会 2007年
104. 辻哲也 講演: がん性疼痛を有する患者のリハビリテーション 認定看護師がん性疼痛看護コース 東京 1月16日 2008

105. 辻哲也 講演：医学の立場から；がんのリハビリテーション最前線 第16回高度先進リハビリテーション医学研究会 2月23日 東京 2008
106. 辻哲也 講演：がん医療の変革とリハビリテーション—患者のニーズに応える医療の実現のために— 講演会（がん医療変革の時代 QOL と尊厳を支えるリハビリテーション） 3月2日 東京 2008
107. 浅井真理子, 森田達也, 他：がん医療に関わる医師のバーンアウトとコミュニケーションスキルトレーニング. シンポジウム「外傷的出来事に職業的に関わる人々のストレスケア」. 日本トラウマティック・ストレス学会. 2007.3, 東京
108. 森田達也：臨床と研究における腫瘍学と緩和医学の共同作業. 第4回日本臨床腫瘍学会総会. 2007.3, 大阪
109. 秋月伸哉, 下山直人, 森田達也, 他：緩和ケアチームのための講習会プログラム. 国立がんセンター東病院支持療法・緩和ケアチーム 厚生労働科学研究費補助がん臨床研究事業「地域に根ざしたがん医療システムの展開に関する研究」班. 2007.3, 柏市
110. 清原恵美, 森田達也, 他：STASを用いた苦痛のスクリーニングシステムについて：pilot study. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
111. 佐々木直子, 森田達也, 他：化学療法施行患者の患者自記式緩和ケアニーズスクリーニングシステム. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
112. 松尾直樹, 森田達也, 他：ホスピス・緩和ケア病棟におけるメチルフェニデート（リタリン）使用の実態：全国医師対象質問紙調査. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
113. 八代英子, 森田達也, 他：神経因性疼痛にギャバペンチンが有効であった8症例. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
114. 鄭陽, 下山直人, 森田達也, 他：日本の緩和ケア専門施設における神経ブロックの治療効果：多施設調査. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
115. 山田理恵, 森田達也, 他：難治性消化器症状に対し薬物療法が奏効した4例. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
116. 難波美貴, 森田達也, 他：立ち上げ5年目の緩和ケアチーム専従看護師の実践内容の分析と役割の検討. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
117. 新城拓也, 森田達也, 他：終末期せん妄に関する、家族の経験についての質問紙調査. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
118. 赤澤輝和, 森田達也, 他：終末期がん患者における精神的苦悩の予測因子に関する検討. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
119. 安藤満代, 森田達也, 他：1週間の短期回想療法は終末期がん患者のSpiritual well-beingを向上させるかもしれない. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
120. 岩崎静乃, 森田達也, 他：ホスピス病棟入院患者の口腔内状況と歯科介入の必要性. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
121. 池永昌之, 森田達也, 他：症状緩和のための鎮静（Palliative Sedation Therapy）の効果と安全性、倫理的妥当性の検討：緩和ケア専門病棟における多施設前向き観察的研究. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
122. 小原弘之, 森田達也, 他：がん患者の呼吸困難に対するフロセミド吸入療法の効果の検討. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
123. 宮下光令, 森田達也, 他：診療記録から抽出する緩和ケアの質の指標（Quality Indicator）の同定：デルファイ変法による検討. 第12回日本緩和医療学会総会. 2007.6, 岡山
124. 森田達也：終末期医療・緩和ケアにおける薬物療法の倫理—とくに鎮静について. 第20回日本サイコオンコロジー学会総会. 第20回日本総合病院精神医学会総会. 2007.11, 札幌
125. 藤森麻衣子, 森田達也, 他：患者が望む悪い知らせのコミュニケーションその2. 第20回日本サイコオンコロジー

- 一学会総会、2007.11、札幌
126. 下山直人：教育シンポジウム「緩和医療」：最近のがん疼痛対策、第4回日本臨床腫瘍学会総会、2006.3.17、大阪
127. 下山直人：シンポジウム：癌患者の病態：栄養、疼痛、免疫、第15回日本病態治療研究会、2006.6.1、東京
128. 下山直人：シンポジウム：麻酔科医による緩和医療の展開と問題点、日本麻酔科学会第53回学術集会、2006.6.3、神戸
129. 下山直人：シンポジウム2：緩和医療に用いる薬の副作用、第11回日本緩和医療学会総会、2006.6.24、神戸
130. 下山直人：シンポジウム2：インフォームド・コンセント、第12回日本臨床死生学会、2006.11.25、川越
131. 下山直人：シンポジウム④「がんの緩和医療を考える」：がんの緩和医療における統合医療の役割、第10回JACT第6回FIM合同大会、2006.12.10、名古屋
132. 的場元弘：緩和医療における麻酔科医の役割、(社)日本麻酔科学会第53回学術集会、2006年6月3日、神戸
133. 的場元弘：がん疼痛治療の考え方とオピオイドの選択、第8回東海緩和医療研究会、2006年6月3日、名古屋
134. 的場元弘：がん疼痛症状コントロール、第3回北信緩和ケア研究会、2006年6月10日、長野
135. 前島良康、的場元弘、他：がん性疼痛に対する高用量アセトアミノフェン坐剤安定性と有効性の検討、第11回日本緩和医療学会、2006年6月23日、神戸
136. 吉本鉄介、的場元弘、他：高用量アセトアミノフェンの鎮痛効果と副作用、多施設における緩和ケア処方士の長期縦断調査、第11回日本緩和医療学会、2006年6月23日、神戸
137. 余宮きのみ、的場元弘、他：バクロフェンのがん疼痛治療における有用性/多施設共同調査、第11回日本緩和医療学会、2006年6月24日、神戸
138. 富安志郎、的場元弘、他：オキシコドン除法製剤内服時の簡易レスキュードーズ設定一有効性と安全性の検討、第11回日本緩和医療学会、2006年6月24日、神戸
139. 橋爪隆弘、的場元弘、他：悪性消化管閉塞に対する酢酸オクトレオチドの有効例、第11回日本緩和医療学会、2006年6月24日、神戸
140. 高橋浩子、的場元弘、他：地域がん治療拠点病院および大学病院におけるがん疼痛治療に使用されるオピオイド製剤の採用状況、第11回日本緩和医療学会、2006年6月24日、神戸
141. 国分秀也、的場元弘、他：がん性疼痛患者におけるオキシコドン製剤の体内薬物動態の検討、第11回日本緩和医療学会、2006年6月24日、神戸
142. 的場元弘：がん疼痛治療と今後の展望について、第21回臨床薬理セミナー、2006年7月9日、熊本
143. 的場元弘：基幹病院における緩和ケアチームの活動と地域連携、第5回岡山がん緩和ケアセミナー、2006年7月28日、岡山
144. 的場元弘：がん疼痛治療の考え方とオピオイドの選択一薬剤師に何を求めるか一、香川県薬剤師会平成18年度第1回生涯教育研修会、2006年9月3日、香川
145. 的場元弘：がん疼痛治療の考え方とオピオイドの使い方、北巨摩・中巨摩医師会学術講演会、2006年9月21日、長野
146. 的場元弘：患者に合わせたがん疼痛治療を行うためには、第10回東北緩和医療研究会、2006年10月7日、仙台
147. 的場元弘：がん疼痛治療におけるオピオイドの選択と治療の実際、南空知緩和医療研究会、2006年10月11日、北海道
148. 的場元弘：がん疼痛治療における医療用麻薬製剤の使い分け、木曜に肺癌を読む会、2006年10月12日、横浜
149. 山下美樹、佐伯俊成、他：総合診療科を窓口としたコンサルテーション・リエゾン精神医療の試み、第47回日本心身医学会総会、東京(2006.5.)
150. 佐伯俊成、他：乳がん患者の家族における不安・抑うつと家族機能の関連、第47回日本心身医学会総会、東京

- (2006. 5.)
151. 山下美樹, 佐伯俊成, 他: 乳がん患者の家族における心理的ストレスと家族機能の関連. 第 102 回日本精神神経学会総会, 福岡市 (2006. 5)
 152. 佐伯俊成, 他: Family Relationships Index (FRI) によるがん家族のタイプ分類—家族機能と不安・抑うつとの関連—. 第 102 回日本精神神経学会総会, 福岡市 (2006. 5)
 153. 佐伯俊成: 緩和医療スタッフが知っておきたい向精神薬の副作用. 第 11 回日本緩和医療学会総会 (神戸市) シンポジウム 2 「緩和医療に用いる薬の副作用」 (2006. 6.)
 154. 佐伯俊成: 進行がん患者の家族への対応. 第 39 回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 (札幌市) シンポジウム 3 「整形外科医にとっての緩和ケア」 (2006. 7.)
 155. 佐伯俊成: 鎮痛補助薬としての向精神薬の処方テクニック. 日本ペインクリニック学会第 40 回大会 (神戸市) ワークショップ 2 「慢性疼痛に対する内服薬の選択と処方のテクニック」 (2006. 7.)
 156. 佐伯俊成: がん疼痛治療に欠かせない精神的ケア—安易なプラセボ鎮痛をなくすために—. 日本臨床麻酔学会第 26 回大会 (旭川市) シンポジウム 「がん疼痛治療を支える」 (2006. 10.)
 157. 辻哲也 講演: 進行がん患者のケアに役立つリハビリテーションテクニック 第 100 回ホスピスケア研究会 東京 2006. 1. 7
 158. 辻哲也 講演: 悪性腫瘍 (がん) のリハビリテーション 第 6 回阪神・神戸リハビリテーション研究会 神戸 2006. 1. 26
 159. 辻哲也 講演: 悪性腫瘍 (がん) のリハビリテーション 日本リハビリテーション医学会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会<中部・東海地方会> 静岡 2006. 2. 18
 160. 辻哲也 講演: 悪性腫瘍 (がん) のリハビリテーション 第 397 回 小田原医師会学術講演会 小田原 3. 16 2006
 161. 辻哲也 悪性腫瘍 (がん) のリハビリテーション 慶應義塾大学病院の現状ががん周術期リハビリテーションの実践とその効果 がん関連施設多地点合同メディカルカンファレンス 東京 3. 23 2006
 162. 辻哲也 講演: 新たな領域への挑戦 悪性腫瘍 (がん) のリハビリテーション 第 24 回老人医療セミナー 千葉 2006. 4. 8
 163. 辻哲也 講演: 周術期の呼吸管理とリハビリテーション 第 1 回一般医科に役立つ呼吸・循環器疾患のリハビリテーション研修会 東京 2006. 5. 21
 164. 辻哲也 講演: 新たな領域への挑戦 悪性腫瘍 (がん) のリハビリテーション ヤンセンファーマ 東京 2006. 6. 10
 165. 辻哲也 講演: 新たな領域への挑戦 悪性腫瘍 (がん) のリハビリテーション 三井記念病院乳癌外科 東京 2006. 7. 21
 166. 辻哲也 講演: 脳卒中リハビリテーションの新たな展開 第 68 回熊本脳血管障害研究会 熊本 2006. 10. 11
 167. 辻哲也 講演: チーム医療で当たる悪性腫瘍患者のリハビリ 日本外科学会 第 70 回卒後教育セミナー 広島 11 月 11 日 2006
 168. 辻哲也 講演: リハビリテーション 第 2 回日本緩和医療学会教育セミナー 東京 2007. 1. 13
 169. 辻哲也 講演: がん性疼痛を有する患者のリハビリテーション 認定看護師ががん性疼痛看護コース 東京 2007. 1. 17
 170. 辻哲也, 田沼明, 木村彰男, 里宇明元 副神経を保存した頸部部清術後の僧帽筋麻痺に関する検討—針筋電図による神経生理学的評価 第 43 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2006
 171. 辻哲也, 田沼明, 木村彰男, 里宇明元 頭頸部癌の周術期における摂食・嚥下リハビリテーションの帰結評価 第 43 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2006
 172. 辻哲也, 田沼明, 宮田知恵子, 川上途行, 笠島悠子, 補永薫, 石川愛子, 松本真以子, 藤原俊之, 長谷公隆, 里宇明元 悪性腫瘍のリハビリテーション—がんセ

- ンターと大学附属病院におけるリハビリテーション科の役割の比較 第44回日本癌治療学会総会 2006
173. 田尻寿子, 辻哲也, 他: がん専門医療機関における作業療法士の役割 第40回作業療法学会総会 2006年
174. 田沼明, 辻哲也, 他: 乳癌術後のリンパ浮腫に対する早期からのリハビリテーションの効果 第44回日本癌治療学会総会 2006年
175. 森田達也: 臨床と研究における腫瘍学と緩和医学の共同作業、第4回日本臨床腫瘍学会総会、2006. 3. 17、大阪
176. 森田達也: 緩和ケアにおける臨床研究の実際、前後比較試験、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
177. 宮下光令, 森田達也, 内富庸介, 他: わが国における終末期のQOL(2)終末期のQOLの概念化—一般集団・緩和ケア遺族を対象とした全国調査、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
178. 赤澤輝和, 森田達也, 明智龍男, 他: 緩和ケアにおける希死念慮をどのように理解すればよいのか?、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
179. 茅根義和, 森田達也, 他: Liverpool Care Pathway (LCP) 日本語版—看取りのパス—の開発、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
180. 福本直子, 森田達也, 他: 薬剤師と緩和治療医によるオピオイド適正使用のスクリーニング回診の有用性、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
181. 佐藤一樹, 森田達也, 他: 一般集団における終末期在宅療養の実現可能性とその関連要因、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
182. 松尾直樹, 森田達也, 他: ホスピス・緩和ケア病棟における不眠に対する鎮静薬ミダゾラム、フルニトラゼパム点滴静注法の施行状況—質問紙調査、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
183. 松尾直樹, 森田達也, 他: ホスピス・緩和ケア病棟における不眠に対する鎮静薬ミダゾラム、フルニトラゼパム点滴静注法についての後ろ向き研究—多施設共同調査 (カルテ調査)、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
184. 山田理恵, 森田達也, 他: 2世代ビスホスホネート抵抗性の高カルシウム血症に対するZoledronateの効果、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
185. 藤本亘史, 森田達也, 他: 緩和ケアセミナーと緩和ケアチームとの共同診療の経験が看護師の自己評価による実践、知識、自身に与える影響、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
186. 瀧川千鶴子, 森田達也, 他: 終末期せん妄に対するフェンタニルへのオピオイドローテーションの臨床評価—モルヒネによるせん妄からの改善と鎮痛効果への影響—多施設前向き研究、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
187. 宮下光令, 森田達也, 他: 質の高い緩和ケアを日本全国に普及させるために取り組むべき課題—日本緩和医療学会、日本ホスピス緩和ケア協会会員を対象とした調査—、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
188. 三條真紀子, 森田達也, 内富庸介, 他: わが国における終末期のQOL(3)終末期ケアに関する選好とその関連要因—一般集団・緩和ケア遺族を対象とした全国調査—、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
189. 平井啓, 森田達也, 内富庸介, 他: わが国における終末期のQOL(1)終末期のQOLの構成要素、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
190. 岩崎静乃, 森田達也, 他: ホスピス病棟での専門的口腔ケアの現状、第11回日本緩和医療学会総会、2006. 6. 23-24、神戸
191. 森田達也: 終末期がん患者に対する輸液治療の是非、第15回HIT (Home Infusion Therapy) 研究会、2006. 8. 25、神戸
192. 森田達也: 腫瘍学と緩和医学の研究の

接点、第2回癌治療先端開発研究シンポジウム、2006.8.26-27、箱根

193. 森田達也、他：聖隷三方原病院における腫瘍治療と緩和治療の共同作業、第47回日本肺癌学会総会号、2006.12.14-15、京都

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

Ⅱ. 総合分担研究報告

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
（総合）分担研究報告書

がん疼痛緩和ガイドラインのシステム構築に関する研究

研究代表者 下山直人 国立がんセンター中央病院 手術・緩和医療部長

研究要旨：平成18年度は、緩和ケアのグランドデザインを作成するために、日本における緩和ケアに関する知識、教育についての研究報告、欧米の緩和ケア関連施設の調査、比較を行った。それを元に緩和ケア関連の学会の代表を集め、日本の緩和ケアの将来のあるべき姿についての活動目標を設定した。

平成19年度は、そのグランドデザインにもとに、がん患者の症状緩和法の基準となるエビデンスに基づく疼痛ガイドライン作成に関して、分担として一般向けの鎮痛補助薬療法ガイドライン、専門家向けの小児がん疼痛治療ガイドライン、神経ブロックガイドライン（ペインクリニックの専門家むけ）に関与した。ガイドライン作成の手順としては、臨床におけるクリニカルクエスションに基づき文献検索を行い、エビデンスレベルに基づく推奨レベルを作成した。今回のガイドラインの作成にあたっては、専門家向け、一般医師向け、一般人向けを意識して作成しており、緩和ケア関連施設における医療者向け（一般病院緩和ケアチーム、ホスピス緩和ケア病棟、在宅医療）、卒然教育における教育コンテンツ作成などにつながることを意図して作成している。今回分担としてガイドライン作成を行った領域は、緩和ケアに関する意識が低く、エビデンスレベルの高い物が少ない領域である。1. 今回の研究がまだ普及していない領域でのガイドライン作成にあたって貢献できたこと、2. 緩和ケア関連施設において提供できる緩和医療を視野に入れたガイドラインの作成が可能になったこと、3. 利用対象によるガイドラインの表現法、ニーズの違いを考慮したガイドラインの作成、教育コンテンツとして使用し、その教育によって受講者の知識の向上、自身の向上につながるようになった点は非常に有益であったと考える。

A. 研究目的

1. 日本の緩和ケア（医療）のグランドデザインを作成し、そのもとに今後の緩和ケア関連学会での活動指針、連携にむけての礎を築くことが最大の目的である。
2. その中で示された正しい知識の普及のもととなるエビデンスの集積、評価を行い、エビデンスレベルを高めるための研究指針も含めたガイドラインの作成を行うことが目的である。

B. 研究方法

B-1: 平成18年度、緩和ケア（医療）のグランドデザイン（今後の達成目標）を、緩和ケア関連学会の代表を集めて策定した。

グランドデザインは、①緩和ケアの本来あるべき姿と現実とのギャップを埋める、②現場からの声（医療者、患者・家族）を吸収する、③行政のニーズを認識する、④先進諸国間での情報交感、⑤新しいエビデンスの策定のために、以下の点を目標と定めた。①緩和ケアに関する正しい知識の普及、②基本的な緩和ケアの普及、③専門的な緩和ケアの整備、④患者と家族が希望する場所で療養できる地域環境の整備、⑤緩和ケアの研究の推進、とした。

B-2:

平成19年度より平成20年度にかけて、グランドデザインにそって、緩和ケアの正しい知識の普及、基本的な緩和ケアの普及、

専門的な緩和ケアの整備を行うために、緩和ケアガイドライン作成を開始した。日本緩和医療学会会員のなかでガイドライン作成に関連する領域の会員を併任している医師を中心にグループを作り、その中で作業を行った。

1. ガイドライン作成にあたってのコンセプト

①緩和医療の普及が不十分な領域におけるガイドライン作成

a. 小児がん疼痛治療ガイドライン、b. 神経ブロックガイドライン（エビデンスが少ない）、

②ガイドラインの対象を考えた作成

a. 専門家向け、b. 一般医療者向け、c. 一般人向け

③緩和ケア関連施設のニーズに応じたガイドライン

上記の対象を含めてクリニカルクエスチョンを作成する。

2. クリニカルクエスチョンの作成

ガイドライン作成のコンセプトに基づき、まずは執筆グループ数名によってクリニカルクエスチョン（Clinical Question: CQ）を設定した。

3. 推奨案の作成

欧米の臨床ガイドラインや教科書を参考にしつつ、それらのガイドラインや教科書に掲載されていない最新の文献、あるいは過去の重要な文献をも包括的に網羅するため、Pubmedなどを用いて文献検索を行った。英文以外の文献と動物実験の文献は除外した。そして個々の文献の批判的吟味を行い、クリニカルクエスチョンに対する推奨案作成をおこなった。

（倫理面への配慮）

ネット上におけるデータベースから文献検索を行い、必要なデータを収集・総括する作業が主となることから、個人情報保護に懸かる問題は特に生じないが、作業によって得られたさまざまな情報の管理については、コンピュータのセキュリティなどに厳重を期した。

C. 研究結果

1. 鎮痛補助薬ガイドライン（資料6）、
2. 小児がん疼痛治療ガイドライン（資料2）、
3. 神経ブロック療法ガイドライン（資

料3）は別添とする。

D. 考察

D-1: グランドデザインに関して

グランドデザインの作成にあたっては、欧米との施設間の比較もおこなったが、死に対する考え方などの違いもあり、それらを考慮して今後微調整をおこなう必要がある。

D-2: 疼痛治療ガイドライン

がん治療医が知っているべき知識と、実施すべき疼痛治療について、一定の目標を設定したが、今後は緩和ケアの専門医とがん治療医双方によるレビューを経て、がん治療にかかわる広い範囲の医師によって有用なものとしなければならない。昨年度の作成過程で用いられた文献は、MEDLINEを用いた文献検索式によって抽出されたものであるべきであるが、検索式に従ったものと、各執筆担当者が不足するエビデンスを補完するために選定した文献が混在している。検索式によらない文献等の引用は、ガイドラインの性質上適当ではなく、あくまでも補助的な使用かつ、その内容や出典がガイドライン本体とは区別して提示されるべきものである。

また、今年度の成果に基づき、医療者向けガイドラインに続いて、一般向けガイドラインの作成の必要性が明らかになっている。一般向けガイドラインの作成は、がんの痛みが適切に治療可能であることや医療用麻薬の安全性について正確で質の高い情報提供の一部であり、緩和医療全体への国民の理解を促す重要な媒体となる。

がん疼痛治療ガイドラインの作成にあたっては、多くの領域があり、緩和ケアの普及が十分でないこと、単独の科では施行できず多職種チームによる必要があることも作成を困難にする要因である。今回の研究によって、1. 単独の科では作成できない領域におけるガイドライン作成の手順を明確にしたこと、2. ガイドラインの利用者のニーズによるガイドラインの作成、3. ガイドラインの利用者の使用場所とそこでの患者・家族のニーズに基づくガイドライン作成システムを意識して作成したこと、3. ガイドラインを教育コンテンツとして使用し、医療者の知識の向上、自身の向上につ

ななることを確認するなど、ガイドラインにフィードバックさせ改善させていくシステムにもつながる研究を行えたこと、そして普及させる手段に間視点具体的な研究も開始できたことなど、これまでに行われてこなかった試みが行われるようになったことは有意義であると考えられる。

E. 結論

E-1

グランデザイン作成により、日本の緩和ケアの指針が定まり、その達成目標のもとに

臨床、教育、研究の発展が見込まれている。

E-2: 疼痛ガイドライン

我が国のがん疼痛ガイドラインの盛り込まれるべき内容は、日本緩和医療学会ガイドライン作成委員会が作成中のガイドラインに継承されており、今年度末に完成予定であり、緩和医療を専門とした医師のみならず、がん治療医にとっても有用性の高い情報が提供でき、我が国のがん性疼痛治療の改善に大きな影響を与える。このガイドラインを基に、一般向けガイドラインの解説を作成することは、がん疼痛患者ばかりでなく、国民の安心につながると考えられる。

緩和ケアの普及のためには、緩和ケア教育が不十分な領域にも浸透していく必要がある。そのためには、少ない対象の領域においても緩和ケアの専門家からガイドラインを提供していくシステムは有効である可能性がある。

1. 今回の研究がまだ普及していない領域でのガイドライン作成にあたって貢献できたこと、2. 緩和ケア関連施設において提供できる緩和医療を視野に入れたガイドラインの作成が可能になったこと、3. 利用対象によるガイドラインの表現法、ニーズの違いを考慮したガイドラインの作成、教育コンテンツとして使用し、その教育によって受講者の知識の向上、自身の向上につながるようになった点は非常に有益であったと考える。

F. 健康危険情報

特記すべきことはなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Megumi Shimoyama, Naohito Shimoyama, et al., Differential analgesic effects of a mu-opioid peptide, [Dmt¹]DALDA, and morphine, *Pharmacology*83 :33-37, 2009
2. Yo Tei MD, Naohito Shimoyama MD, PhD, et al., Treatment Efficacy of Neural Blockade in Specialized Palliative Care Services in Japan: A Multicenter Audit Survey, *Journal of Pain and Symptom Management* 36(5):461-467, 2008
3. Nozaki-Taguchi N, Shimoyama N, et al., Potential utility of peripherally applied loperamide in oral chronic graft-versus-host disease related pain *Jap J Clin Oncol* 38(12):857-860, 2008
4. Masaru Narabayashi, Naohito Shimoyama, et al., Opioid Rotation from Oral Morphine to Oral Oxycodone in Cancer Patients with Intolerable Adverse Effects: An Open-Level Trial, *Japan Journal Clinical Oncology*, 38(4)296-304, 2008
5. Mitsunori Miyashita, Naohito Shimoyama, M.D., Ph.D., Yosuke Uchitomi, M.D., Ph.D., et al: Barreirs to Providing Palliative Care and Priorities for Future Actions to Advance Palliative Care in Japan: A Nationwide Expert Opinion Survey *10(2):390-399, 2007*
6. Yamada H, Shimoyama N, et al.: Morphine can produce analgesia via spinal kappa opioid receptors in the absence of mu opioid receptors, *Brain Research* 1083(1):61-69, 2006
7. 高橋秀徳, 下山直人: 癌性疼痛と疼痛緩和, *Cancer Treatment Navigator* (中川和彦編), 株式会社メディカルレビュー社, p272-273, 2008
8. 下山恵美, 下山直人, 他: 鎮痛補助薬, *臨床緩和医療薬学* (日本緩和医療薬学会編), 真興交易株式会社医書出版部, p78-92, 2008
9. 下山恵美, 下山直人: 疼痛管理, *造血幹細胞移植の基礎と臨床* (上巻) (神田善伸編), 医薬ジャーナル社, p 299-302, 2008
10. 大上俊彦, 下山直人, 他: 膝がんの疼痛マネジメント, *膝がん標準化学療法の実際* (奥坂拓志編), 金原出版, p 59-61, 2008

11. 高橋秀徳、下山直人、他：国立がんセンター中央病院、緩和ケアチームの立ち上げとマネジメント（後明邦男編）、南山堂、p130-133, 2008
12. 下山直人、他：疼痛のメカニズム、緩和ケア（東原正明編著）、振興医学出版社、p6-9、2008
13. 下山恵美、下山直人、他：ペインクリニックに関わる「がん対策基本法」、ペインクリニック 30(1):83-91, 2009
14. 下山恵美、下山直人、他：緩和医療の位置づけ がん薬物療法、日本臨床 67増刊号、S528-533, 2009
15. 下山直人：疼痛緩和のガイドライン、腫瘍内科 2(5):399-405, 2008
16. 下山直人、他：難治性疼痛の治療、麻酔、57増刊、S170-S179, 2008
17. 笠井慎也、下山直人、他：がん性疼痛患者におけるオピオイドの作用、副作用に関する遺伝子解析、ペインクリニック 29：s439-s449, 2008
18. 高橋秀徳、下山直人、他：癌の痛みを上手にとるには、外科治療 99(6)580-590, 2008
19. 下山直人、他：がん性疼痛患者へのチームによる全人的緩和医療、慢性疼痛 27(1):31-36, 2008
20. 下山直人、他：緩和医療の最前線、頭頸部癌 34(3):300-304, 2008
21. 下山恵美、下山直人、他：がんと統合医療—緩和医療、モダンフィジシャン 28(11):1605-1607, 2008
22. 下山直人：疼痛緩和のガイドライン、腫瘍内科 2(5):399-405, 2008
23. 下山直人、他：がん性疼痛を取り除くための薬剤の知識、Expert Nurse 24(10):33-39, 2008
24. 下山直人、他：研究プロジェクト②がん疼痛に対する代替療法・支持療法、緩和医療学 10(3):11-16, 2008
25. 下山恵美、下山直人：緩和ケアチームの現状と課題、総合臨床 57(6):1807-1808, 2008
26. 下山直人：緩和医療の現状と今後の展望、東京都医師会雑誌 61(4):75-79, 2008
27. 下山恵美、下山直人：鎮痛補助薬総論（その意義）、緩和医療学 10(2):3-8, 2008
28. 片山博文、下山直人：緩和療法の実践、がん看護実践シリーズ3 肺がん（田村友秀編）、メヂカルフレンド社、p 146-154, 2007
29. 大澤美佳、下山直人、他：ターミナル期にある患者の支援、がん看護実践シリーズ8 乳がん（藤原康弘編）、メヂカルフレンド社、p 197-212, 2007
30. 下山直人：緩和医療におけるインフォームド・コンセント、医をめぐる自己決定—倫理・看護・医療・法の視座—（五十子敬子編）、イウス出版、p 147-161, 2007
31. 下山恵美、下山直人：緩和医療1. オピオイドの使い方は？、EBM 呼吸器疾患の治療（永井厚志、吉澤靖之、大田健、江口研二編集）、中外医学社、p 405-408, 2007
32. 下山直人：医療用麻薬（オピオイド鎮痛薬）の種類と特徴、インフォームドコンセントのための図説シリーズ がん性疼痛（下山直人編）、医薬ジャーナル社、p 34-39, 2007
33. 高橋秀徳、下山直人：II. 緩和ケアにおけるコンサルテーション活動の専門性2. 緩和ケアチームで活躍する医師の役割と実際—1）緩和ケア担当医の立場から、ホスピス緩和ケア白書2007（（財）日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会編集）、（財）日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団、p24-27, 2007
34. 下山直人：がん患者の苦痛に対する鍼灸の効果、統合医療 基礎と臨床（日本統合医療学会、渥美和彦編集）、株式会社ゾディアック、p66-73, 2007
35. 下山恵美、下山直人、他：経口オピオイド鎮痛薬の重要性とオキシコドンが果たす臨床的役割、がん患者と対症療法 18(2), 6-10, 2007
36. 下山直人：科学的知見に基づくオピオイドに関する知識の再確認、がん患者と対症療法 18(2), 85-87, 2007
37. 中山理加、下山直人、他：疼痛コントロール、内科 100(6):1037-1045, 2007
38. 片山博文、下山直人、他：腎障害を伴

- うがん患者の痛み治療におけるオキシコドンの有用性—モルヒネからの切り替え事例を経験して、がん患者と対症療法 18(2):40-42, 2007
39. 下山直人: 緩和治療・痛みのケア、別冊暮らしの手帖 がん安心読本:76-81, 2007
 40. 下山直人: 緩和ケア療法における鎮痛薬の使い方、日本耳鼻咽喉科学会専門医通信 92:12-13, 2007
 41. 中山理加, 下山直人, 他: 癌性疼痛、臨牀と研究 84(6):57-61, 2007
 42. 下山直人: 緩和医療はここまで進んだ、東京女子医科大学雑誌 77(4):182-186, 2007
 43. 服部政治, 下山直人, 他: オピオイドローテーション、緩和医療学 9(2):79-85, 2007
 44. 中山理加, 下山直人, 他: QOL維持のための疼痛管理、からだの科学、253:178-182, 2007
 45. 木俣有美子, 下山直人, 他: 肺がんの合併症対策 1) がん性疼痛の管理、呼吸器科、11(2):156-163, 2007
 46. 門田和気, 下山直人, 他: 新しく導入される可能性の高いオピオイドとその意義、がん看護、12(2):180-183, 2007
 47. 中山理加, 下山直人, 他: 鎮痛補助薬、日本臨牀、65(1):57-62, 2007
1. 下山直人: 許認可薬の適応外使用について、緩和ケア、16Suppl.:294-296, 2006
 2. 下山恵美, 下山直人: がん性神経障害性疼痛の基礎研究、ペインクリニック、27(8):959-964, 2006
 3. 笠井慎也, 下山直人, 他: がん性疼痛患者におけるオピオイドの作用、副作用に関する遺伝子解析、ペインクリニック、27(8):965-973, 2006
 4. 高橋秀徳, 下山直人, 他: モルヒネ、フェンタニル、オキシコドンを使い分ける(オピオイドローテーション)、モダンフィジシャン、26(7):1210-1211, 2006
 5. 下山直人, 他: 緩和ケアにおける麻酔科の役割、日本医師会雑誌、135(4):806-811, 2006
 6. 村上敏史, 下山直人: がん性疼痛における痛みのアセスメント、痛みと臨床、6(3):72-77, 2006
 7. 高橋秀徳, 下山直人, 他: モルヒネの効かないがんの痛みをどうするか?、Modern Physician、26(6):1024, 2006
 8. 越川貴史, 下山直人: 在宅緩和ケアへの移行と疼痛管理について、癌と化学療法、33(5):611-615, 2006
 9. 辻尚子, 下山直人: 小児がんの痛みと治療の基本姿勢、がん患者と対症療法、17(1):6-10, 2006
 10. 下山直人: がん患者におこる痛みの治療におけるオピオイド製剤の使い方、実験治療、681:60-63, 2006
 48. 下山直人, 他: 麻酔科医がペインクリニシャン、そして緩和ケア医となって、日本臨床麻酔学会誌、26(1):18-24, 2006
- ## 2. 学会発表
1. Shimoyama M., Shimoyama N., et al., Endocannabinoids are involved in the pain modulation by orexin, 12th world Congress on Pain, Glasgow, Aug. 20th, 2008
 2. 下山直人: 「癌領域に関する緩和治療」: 第7回千葉県がん専門薬剤師セミナー、2008. 1、千葉
 3. 下山直人: 「がん緩和医療の最前線について」: 平成 19 年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」これからのがん医療のあり方を考える市民公開講座、2008. 1、札幌
 4. 下山直人: シンポジウム『がん性疼痛患者の心をさぐる』「がん性疼痛患者へのチームによる全人的緩和医療」: 第37回日本慢性疼痛学会、2008. 2、栃木
 5. 下山直人: 「緩和医療の現状と今後の展望」: 千葉がん疼痛治療フォーラム、2008. 3、千葉
 6. 下山直人: 「がんの緩和療法のノウハウ」: 第96回日本泌尿器科学会総会「指導医教育企画」、2008. 4、横浜
 7. 下山直人: 「頭頸部がん患者の緩和ケア」: 第32回日本頭頸部癌学会教育講演2、2008. 6、東京
 8. 下山直人: 「難治性疼痛の治療」: 第55回日本麻酔科学会教育講演11、2008. 6、横浜